県立長崎図書館だより

いしだたみ

No. 141
2003年3月

◉創立90周年記念式典・記念講演会
◉創立90周年記念「館蔵名品展」
◉郷土資料紹介
◉西有家町公民館図書室より
◉平成15年度行事案内

平成15年度全国高等学校総合体育大会
長崎が君の鼓動で熱くなる
2003
2003年長崎ゆめ総体

創立90周年記念式典・記念講演会

明治45年（1912）６月１日に創立された本館は、今年度で90周年を迎え、去る２月17日に、本館講堂において、来賓、旧職員等117名の出席を得て、記念式典を開催した。

はじめに、県立長崎図書館長が、ここに90年の節目を迎えることができますのも、本館の発展にご尽力頂きました先輩旧職員をはじめ、関係各位、県民の皆様のご支援の賜と深く感謝するとともに、図書館が「生涯学習の中核的施設」として認識される中で、本館がその学習の拠点として果たすべき役割は極めて大きくなっており、私共職員も、そういった県民の寄せる期待に応えられるよう、本館の発展のため最善の努力を傾けて参る所存であると式辞を述べた。

続いて、木村道夫県教育長が、「だれでも、どこでも、あらゆる図書資料を」ということを基本理念に、広くすべての県民への行き届いた図書館サービスができるよう、全県下にわたる図書館活動の推進や、大学図書館をはじめとする他の図書館とも館種を越えた連携を図りつつ、本県図書館活動の充実を図ることが必要であるとあいさつを述べた。

また、引き続き、竹内悊日本図書館協会理事長が来賓の皆様を代表して、県立長崎図書館が、本県における公立図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館を結ぶ要として、国立国会図書館をより国民のものとするための双方向の連絡の拠点として、さらに、日蘭交渉史と長崎学の資料とサービスの国際的な中心として発展されることを期待したいと祝辞を述べられた。

次に、表彰状・感謝状の贈呈が行われ、本県の読書活動の推進、地域文化の向上に寄与された３団体に表彰状が、また、本館に貴重な資料や多数の図書をご寄贈いただいた２名の方に感謝状が贈られた後、記念式典を終了した。

休憩の後、長崎歴史文化協会理事長の越中哲也氏による「長崎学の思い出」と題した記念講演が行われた。越中氏の講演は、長崎文庫（本館の前身）の設立から、県立図書館、市立博物館の歴史に沿いながら、長崎学の基礎を築かれた先人や、越中氏自身と交流のあった諸先輩の方々などの話を、時にはユニークなエピソードを交えながらお話しをしていただいた。なお、記念講演には、一般参加者を含む163名の参加があった。

記念講演の終了とともに、予定していた90周年記念の行事は滞りなく終了することができた。

また、本館では、この創立90周年を記念して、記念誌「創立90周年を迎えて－この10年の歩み－」を刊行した。

《受賞の方々》（敬称略）

◎長崎県地方史研究会　代表　宮川　雅一
◎長崎県読書グループ連絡協議会　代表　中島　信子
◎読み聞かせの会　代表　椎名　清子
◎楠本寿一氏
◎日産長崎会（日産自動車株式会社）

創立90周年記念「館蔵名品展」

本館では、創立90周年を記念して、4階郷土資料展示室を中心に、「館蔵名品展」を開催しました。

本館が所蔵する国指定重要文化財の「安政二年日蘭条約書」をはじめとして、「長崎奉行所関係資料」や「キリスト教関係資料」、また、芥川龍之介、坪内逍遙、犬養毅、岡本太郎、司馬遼太郎他各界著名人の署名がある「芳名録」等の展示を行いました。

主な展示資料は次のとおりです。

【県・国指定重要文化財】
・「日蘭条約書」（レプリカ）及付属文書
・「一揆契諾条之事」（青方文書）
・「豊臣秀吉朱印状」（青方文書）

【長崎奉行所関係資料】
・「長崎奉行所御役成一件」
・「出島乙名門鑑」他

【蘭・洋楽関係】
・「蘭学事始」　・「解体新書」他

【キリスト教関係】
・「異宗一件」(三番崩)
・「異宗一件書類」(四番崩）他

【郷土新聞】
・「崎陽雑報」　・「鎮西日報」
・「東洋日の出新聞」他

【絵図類】
・「鯨捕沿革図説」
・「有馬原城攻囲之図」他

【器物類】
・「回覧文庫（回送箱)」
・「荒川文庫（　〃　)」

その他、2～4階階段には「旧長崎図書館」等の写真を展示しました。その一部をご紹介します。

【旧長崎図書館】

交親館を増改築して創設された。大正4年11月28日落成。

【旧長崎図書館児童閲覧室】

別に普通閲覧室、成人閲覧室があった。

【旧長崎図書館受付】

玄関を入ると受付があり、「閲覧票」・「登録許可証」を交付した。

【移動図書館】

貸出用の図書約500冊を積んで巡回した。

◎ 郷土資料紹介

かしこしな 君が恵みを 重ねきて 今朝立ち出でる 袖の涼しさ

― 長崎旅日記・長崎紀行(18) ―

今回から少し脇道にそれて、安政二年（1855）から翌年にかけて長崎奉行を勤めた川村対馬守修就（ながたか）とその家臣の記録をもとに、幕末激動期に入るころの長崎をご紹介しましょう。

川村修就は初代の新潟奉行を勤めた人物ですが、その縁で関係資料は新潟市郷土資料館に寄贈、保存されています。まず、同館の調査年報第22集『初代新潟奉行　川村修就』によって彼の生涯を概観してみます。

川村家は八代将軍吉宗にしたがって江戸に入り、代々お庭番を勤めた家柄ですが、その分家（家禄二百俵）の２代目が修就です。寛政七年（1795）、江戸下谷同朋町に生まれた修就は、砲術・歌道など文武に優れた行政官として頭角を現し、老中水野忠邦のもとで勘定吟味役から天保十四年（1843）に初代新潟奉行に就任しました。

もともと新潟は長岡藩領でした。天保になって唐物抜荷事件が２度も発覚したものですから、幕府は長岡藩に上知を命じて直接支配することにしたのです。その初代奉行ということで、いかに修就が水野忠邦の信頼を得ていたかわかります。９年間新潟奉行所の基礎作りを行った修就は、堺奉行に転出、さらに大坂西町奉行を経て、いよいよ長崎奉行に就任することになりました。その後も小普請奉行、大坂東町奉行などを歴任しています。

ここに川村修就の近習として来崎した酒巻興敬の「おもい出草」（新潟市郷土資料館提供）という史料があります。酒巻興敬は越後国北蒲原郡の生まれ、14歳の時川村奉行の童小姓として仕えるようになり、20歳の時竹前管蔵の名前で長崎に来ています。その後彼は幕臣酒巻家に養子として入り、幕府瓦解後は新政府に出仕して工部省・陸軍省などで主に建築関係の仕事をしました。

維新後も川村家との付き合いは絶えず、興敬隠居後の72歳の時（明治四十年）、「おもい出草」を著して修就の子川村帰元へ呈したと、その「はし書」にあります。50年以上もたった後日談ですから記憶違いもあるようですが、それでも興味深いことがらをいくつも拾うことができました。

安政二年四月、長崎奉行を命ぜられた川村修就が、早速長崎港警備を交代で担当する黒田・鍋島の両家より多くのお祝いの贈り物を受け取ったことから始めましょう。

> 両家より拝命の歓びとして時服、大紋地熨斗目、上下地綸子、羽二重、紗綾、縮緬、真綿等、畳一畳敷き程の台に山と積み、又、鮮魚交魚、野菜、香物等各々一台、加之黄金及び太刀・馬代こちたく贈り物あり。是れ皆先規によるもののよし

「交魚」は贈答用の魚数種（サワラ・エビなど３・

5・7種)、「こちたく」はたくさんの意。それにしても長崎奉行になると、豪勢な役得があるものですね。両家の他薩摩・肥後・大村・唐津・五島・久留米・柳川・小倉・長州などからも使者及び贈り物が届いて「門前市をなせり」という状況だったようです。

将軍家定に拝謁して時服と黄金を賜り、道中十万石の格式を整えて美々しき旅装の川村対馬守修就は門出に当たって次のような歌を詠みました。

かしこしな 君が恵みを 重ねきて
今朝立ち出でる 袖の涼しさ

人もうらやむ役職を射止めた修就の得意満面な様子が目に浮かぶようです。ここで新長崎奉行一行の構成を見てみましょう。東大史料編纂所が所蔵する「長崎道中在勤中手留」は、修就の給人として随行した野々村市之進が書き残した一級史料で、そこに一行全員の名前が載っています。

家老 中村豊之進、用人 上原源八郎・渡辺由郎、給人 板垣昇平・野々村市之進他3名、以下納戸役、右筆、近習、中小姓、徒士目付、徒士、足軽、中間と続き、総勢80名程の陣容でした。各地の奉行を歴任した修就ですから譜代の家臣も育っていたでしょうが、加増されても家禄三百俵の身では必要な家臣・小者を常時抱えておくことはできません。そこで長崎に着任するに当たって臨時の家臣・小者を江戸で補充し、とくに財務にたけた人材を求めました。野々村市之進はそうした人物だったわけです。

修就一行は七月四日に江戸を立ち、中山道経由で京都に向かったのですが、野々村は旅の手配をする係りだったらしく、次のような「馬触」を出しています。

馬触	長崎奉行	川村対馬守内
		野々村市之進
	伝馬方役人中	飯田新之丞

覚

一馬 四拾三疋 内 拾弐疋は七月三日立
三拾壱疋は七月四日立

右は対馬守明後四日長崎表へ交代のため朝六時発足ニ付

書面之通表弐番町屋敷へ差越さるべく候、以上

川村対馬守内 野々村市之進
七月二日 飯田新之丞

馬込勘解由殿
小宮善右衛門殿
高野新右衛門殿

『佐賀藩銃砲沿革史』より

この後も色々と細かい手配りがなされ、大坂・姫路・岡山などを経て、八月五日下関（赤間関）に到着。本陣では主人や当地の長崎用達から硯を贈られています。名産の赤間硯でしょう。

長崎警備両家のうち、この年は肥前鍋島藩が非番のため、小倉渡海の船を用意して出迎えました。六日大里に上陸、八日には長崎街道の宿場山家から大宰府へ廻り、天満宮に参詣して、この日は田代泊、九日佐賀に入りました。

「おもい出草」によれば藩主鍋島直正が在国しており、「大砲製造所一覧の案内あり。修就君は親敷く一覧あり」と書かれているのに対し、野々村の「手留」が、本陣を出て20町ばかり過ぎた処で「カンシヤロウ御一覧有之」としているところは面白い。当時野々村は反射炉（はんしゃろ）がわからず、誤記したのです。

十日は武雄温泉で湯につかり、十一日大村泊、十二日夕方ようやく長崎奉行所西役所に到着しました。以下次号で。

（郷土課本馬）

「子どもたちの顔が見える図書館を目指して」

西有家町公民館図書室　四　辻　淳　子

平成16年春の開館を目標に、昨年４月から西有家町の公民館図書室に勤務しています。初めから子どもたちがよく利用してくれました。たくさんの絵本を担ぐようにして借りていきます。子どもたちが本好きだということを改めて認識しました。そこで考えたことは「大人の利用者を大切にするのはもちろんだが、何といっても子どもたちが喜んでくれる図書館をつくろう」ということでした。子どもたちがそんな思いに導いてくれました。

私たちの西有家町は人口約9000人、そして小中学生の数が900人です。それまで広島県の県立高校に勤務していましたが、その学校の生徒数が900。そのくらいの数だったら顔と名前が一致しないはずはないと考えました。子どもたち一人ひとりの顔が見える図書館にしたい。子どもの読書傾向や趣味・家庭環境までも把握している図書館・・・。

今は改築のために小学校に間借りをしていますが、自分の学校の図書室のように利用してくれます。おかげで、すっかり子どもたちと仲良くなりました。貸出数も思いがけないほど伸びました。図書資料を通じてのふれあいの外、子どもたちの日常生活の中に溶け込んだ図書館活動を心がけるようにしました。低学年の子どもが「おねえちゃん、この本読んで・・」と来たら、必ず付き合うことにしています。子どもたちと日常を共にすることの中から、何か生まれてきそうな気がします。ジグソーパズルの絵本で遊びます。せがまれて、休みの日にはソフトボールの試合の応援に出かけることもありました。子どもたちと栞づくりをします。週３回定期的に行いますが、待ちかねるようにして子どもたちが集まってくれます。

そして最近の人気が、「詩やうたをおぼえたい」です。工藤直子の詩と百人一首を載せた小さなテキストを作って、それを暗誦させるものです。１つ覚えたら、自分のカードに１つシールが貰えます。シールが増えるのが楽しみなのです。小学４年生が10日もしないうちに工藤直子の詩を20篇覚えてしまいました。正直なところ驚きました。中学校の国語の先生が、中学生にもやらせたいと相談にきてくださいました。

蔵書構成や選書に日々頭を悩ませます。設計図を見てもっといい工夫があるのではないかと心配はつきません。しかし、その先には町民の皆さんが喜んでくださる図書館ができるのだと、それを信じて毎日を送っています。西有家の名産はそうめんだけではない。人材だって立派な特産品だといわれるような図書館づくりをしたいと考えています。

西有家の子どもたちと

「図書館紹介」はお休みしました。

平成15年度行事案内（４月～８月）

４月　ながさきおはなしフェスティバル
（26日　勤労福祉会館）

５月　県地方史研究会役員会、総会及び第１回研究発表会（25日　本館）
第１回長崎県公共図書館等協議会理事会及び総会（26日　長崎市）

６月　県読書グループ連絡協議会第１回理事会、総会及び文化講演会（２日　本館）

７月　古文書解読講習会〔初級〕
（28日　本館、29日　佐世保市）

８月　古文書解読講習会〔中級〕
（５～６日　本館、７～８日　佐世保市）

編集・発行　長崎県立長崎図書館　長崎市立山１丁目１番51号／印刷　㈱昭和堂　長崎市栄町６-23 昭和堂ビル
ＩＳＳＮ　1344－5235　ホームページアドレス　www.lib.pref.nagasaki.jp

PRINTED WITH SOY INK　R100
この広報紙は、環境に配慮した大豆油インキと古紙配合率100％の再生紙を使用しています。